

農林水産部

農林水産委員会

【所管事項関係資料】

2月 19 日提出

目 次

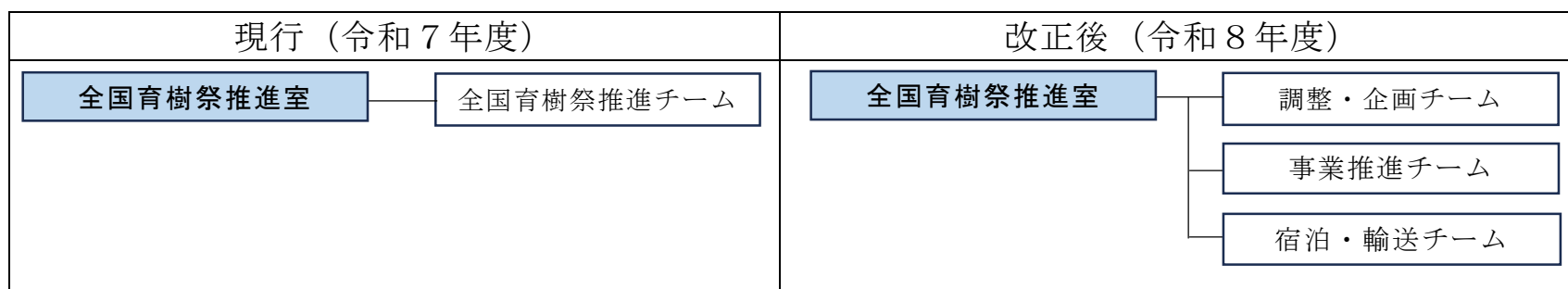
1	令和8年度の組織再編等について〔農林水産部〕	3
2	あきた農林水産ビジョン（案）について〔農林政策課〕	4
3	農畜産物の輸出の取組状況と今後の対応について 〔農業経済課販売戦略室・水田総合利用課・畜産振興課〕	5
4	シジミ増殖可能性検討事業の調査結果について〔水産漁港課〕	7
5	第50回全国育樹祭の基本計画（案）について 〔森林環境保全課全国育樹祭推進室〕	9

1 令和8年度の組織再編等について

農林水産部

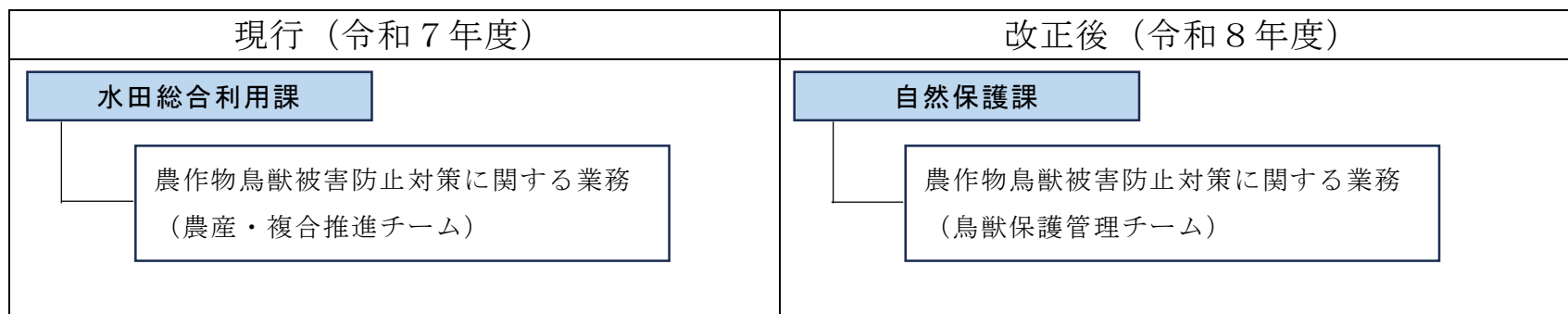
1 組織再編

令和9年に本県で開催される「第50回全国育樹祭」に向けた準備を円滑に進めるため、森林環境保全課全国育樹祭推進室を3チームに拡充する。



2 業務移管

ツキノワグマなどの鳥獣対策を一元化し、総合的に推進するため、水田総合利用課が所管している農作物の鳥獣被害防止対策に関する業務を自然保護課に移管する。



2 あきた農林水産ビジョン（案）について

農林政策課

「秋田の農林水産業と農山漁村を元気づける条例」第9条の規定に基づく農林水産業及び農山漁村の振興に関する基本計画となる「あきた農林水産ビジョン」（案）を取りまとめた。

ビジョンの構成

第1編 ビジョンの策定に当たって

- ・ 策定の趣旨・実施期間・計画の位置付け
- ・ 農林水産業を取り巻く情勢
- ・ これまでの成果と課題、今後の推進方針

第2編 ビジョンの目指す姿

第3編 施策展開

- ・ 施策1 日本の食を支える農業を実現する
- ・ 施策2 森の恵みを未来へつなぐ林業・木材産業を実現する
- ・ 施策3 環境変化に対応した新たな水産業を実現する
- ・ 施策4 活力あふれる明るい農山漁村を実現する

※次期総合計画の「政策3 農林水産」をベースに、「政策2 観光・交流」、「政策7 防災・減災・県土強靱化」及び「政策8 環境・暮らし」の一部を取り込み構成

第4編 農林水産業の展望

10年後の農業経営体数や労働力、生産基盤等の展望

第5編 経営モデル（営農類型）

年間農業所得480万円以上、年間総労働時間2,000時間以内を達成する営農類型の提示

第6編 参考資料

3 農畜産物の輸出の取組状況と今後の対応について

農業経済課販売戦略室
水田総合利用課
畜産振興課

1 今年度の取組状況

(1) 秋田県農畜産物輸出促進協議会の設立

- 令和7年8月、輸出に関わる関係者が連携し、オール秋田で輸出促進に取り組むプラットフォームとして協議会を設立した。
- 12月には、同協議会が米のフラッグシップ輸出産地の認定を受けた。

(2) 輸出先でのトップセールス、PR

- 台湾
 - ・ 台北・高雄での秋田牛・ねぎ・りんご等のトップセールス（8月、11月）
 - ・ 高雄での卸売業者を対象とした秋田牛カット技術講習会（10月）
 - ・ 台北の日本食レストランでのシャインマスカット等の商談会（1月）
- タイ
 - ・ 東北経済連合会と連携し、国際見本市（タイフェックス）に米を出品（5月）
 - ・ 秋田牛のトップセールス、カット技術や調理法に関する講習会（11月）
 - ・ 秋田紅あかりのPRフェア（12月）
- シンガポール
 - ・ 量販店等を対象とした米・ねぎ・りんご等の商談会（12月）



台湾での
トップセールス

2 これまでの主な成果

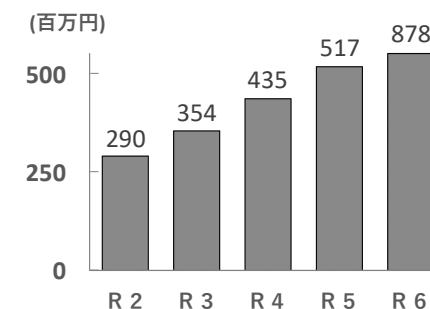
(1) 台湾

- トップセールスにより、大手量販店や高級レストラン等と青果物・秋田牛の新規契約が締結された。

(2) タイ

- 秋田紅あかりについて、大手百貨店での冬期の定番商品として、取引が拡大した。
- 秋田牛のカット技術や調理法に関する講習会により、これまで利用が少なかった部位の契約につながった。

〔県産農畜産物の輸出額〕



(3) シンガポール

- 大手量販店バイヤーの産地招へいや生産者の海外視察等を通じ、農産物PRフェアの開催に向け連携を深めた。

3 今後の対応方針

(1) 輸出産地の育成と生産対策

- 協議会によるフォーラム等の開催により、県内産地と生産者の意識醸成を図る。
- 台湾、タイ向けのりんごについて、現地の輸入規制に対応した防除体系の確立に向け、実証試験に取り組む。
- 台湾向けのねぎについて、低コスト輸出ルートの構築を目指した実証試験に取り組む。

(2) プロモーションなど販売対策

- 米については、大手輸出商社と連携したテストマーケティングを行うほか、商談会を開催するなど、県内事業者の販路開拓を支援する。
- 青果物については、観光と連携したPRや新規取扱飲食店でのフェア、量販店での試食販売会等のプロモーションを継続するとともに、持続的な輸出ルートの構築に向け、実需者との商談機会の創出を図る。
- 秋田牛については、部位ごとのカット技術や調理法の提案を行い、1頭買いの需要拡大を図る。

4 シジミ増殖可能性検討事業の調査結果について

水産漁港課

八郎湖における淡水性セタシジミの増殖の可能性を検討するため、母貝や稚貝の生息環境等を調査した。

1 調査結果

過年度調査（H28～29）において底質が優良であった地点を中心に、湖内20地点を選定し現地調査を実施。

(1) 生息実態調査

- 母貝調査では、主に防潮水門付近から塩口排水路付近にかけて分布し、8地点で生息を確認。
- 稚貝調査では、母貝とほぼ同じエリアの10地点で生息を確認。
- 生息密度については、母貝及び稚貝ともに、セタシジミが生息する琵琶湖の値と比較し総じて低い水準。

項目	調査時期	生息地点数・密度	琵琶湖参考値
母貝	令和7年6～8月	8地点・0.24～0.95個体/m ²	10個体/m ²
稚貝	令和7年7、9、11月	10地点・4.44～8.89個体/m ²	300個体/m ²

(2) 生息環境調査

- 生息適地となる底質環境について、調整池西側の5地点で評価基準を満たす優良地点を確認。
- 優良地点は、近年の大雨による底泥堆積の影響等により、過年度調査と比較し減少。


項目	調査時期	評価基準を満たす優良地点数	過年度調査優良地点数
底質	令和7年9月	5地点（調整池西側・砂質）	11地点

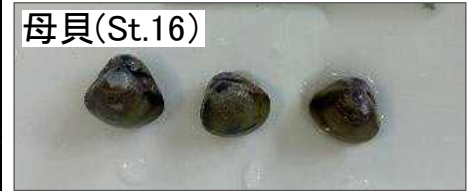
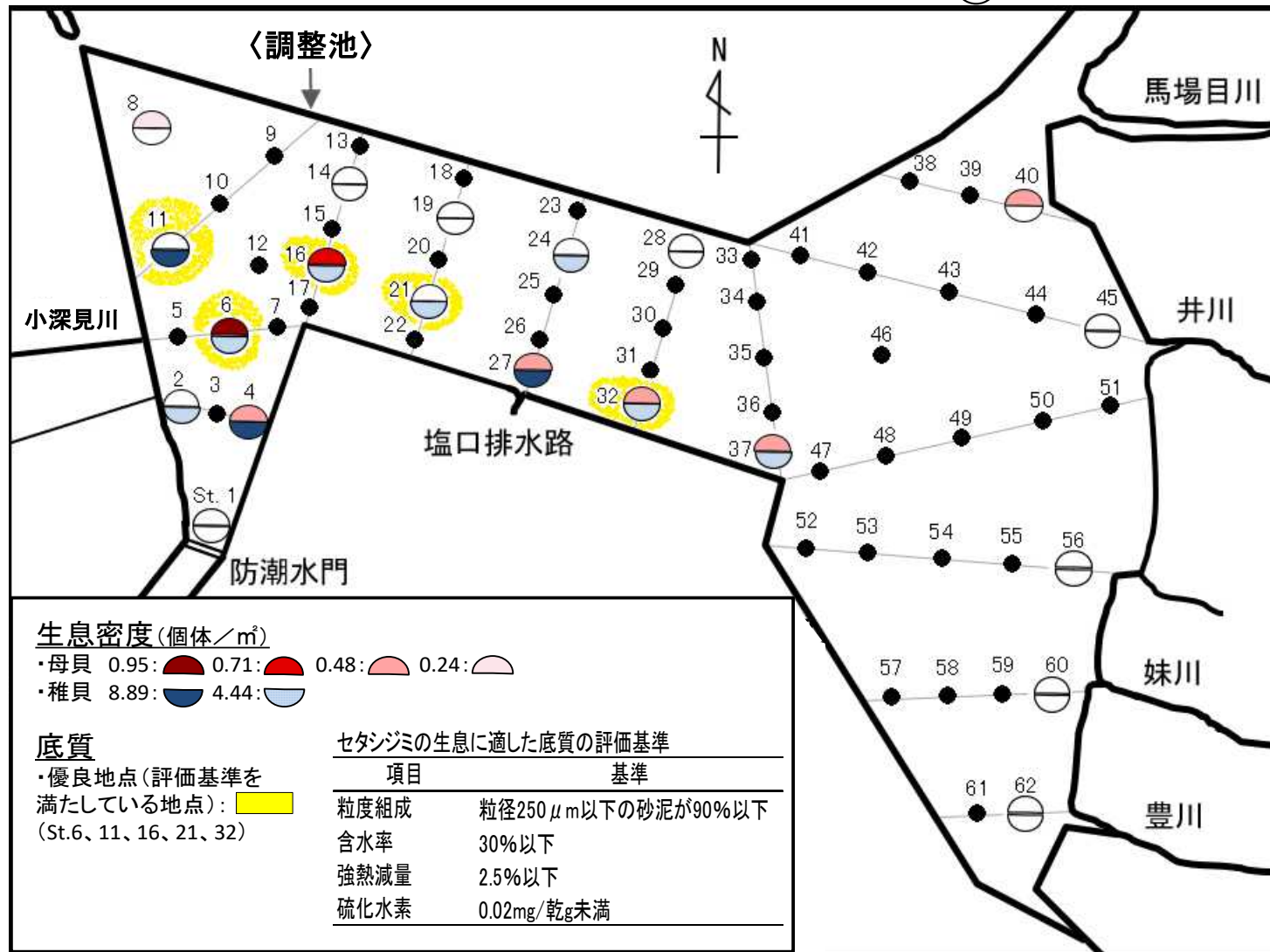
2 セタシジミ増殖の可能性

- 昭和43年から平成7年にかけて約75トンのセタシジミの母貝を放流したが、現在は、優良な砂質の湖底を中心にわずかに分布しているのみであり、再生産が行われているものの、資源量は極めて少ない。
- 本県では種苗生産技術が確立されていないことに加え、先進県の滋賀県においても健全な母貝の確保に難航するなど生産体制に課題を抱えており、技術面・コスト面から放流による増殖は難しい状況である。
- 以上のことから、現状では、商業可能な水準までセタシジミを増殖させることは困難と判断される。

【八郎湖におけるセタシジミ生息密度及び底質調査位置図】

※St. 1~62・・・H28~29年底質調査地点（62地点）

※ ・・・R7年生息密度及び底質調査地点（20地点）



〔採取した母貝〕



〔優良底質〕



〔不良底質〕

5 第50回全国育樹祭の基本計画（案）について

森林環境保全課全国育樹祭推進室

令和9年度に本県で開催する第50回全国育樹祭の開催理念や方針、各行事の概要などを定めた基本計画（案）を取りまとめた。

1 主催

秋田県（第50回全国育樹祭秋田県実行委員会）
公益社団法人国土緑化推進機構

2 開催時期

令和9年秋季

3 今後の予定

- ・令和8年3月 基本計画策定（第50回全国育樹祭秋田県実行委員会開催）
- ・ 6月 実施計画・宿泊輸送計画委託
- ・ 12月 国民参加の森林づくりシンポジウム開催（1年前プレイベント）
- ・令和9年2月 秋田県緑の少年団活動発表大会開催
- ・ 3月 実施計画策定（第50回全国育樹祭秋田県実行委員会開催）



〔シンボルマーク〕



〔大会ポスター原画〕

1. 全国育樹祭の目的

全国育樹祭は、「継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発し、国民の森林に対する愛情を培うこと」を目的に、昭和52年から、全国植樹祭を開催したことのある都道府県において、公益社団法人国土緑化推進機構との共催で毎年秋に行われている全国行事です。

全国植樹祭において天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木に、皇族殿下が枝打ちなどのお手入れをなされるシンボリックなお手入れ行事に加え、皇族殿下からのおことばをいただくほか、各種表彰等の式典行事が催されます。

2. 過去の開催状況

■ 第19回全国植樹祭 昭和43年5月19日（日）



- 会場
仙北市
(旧田沢湖町：大森山)
- 参加人数
14,500人

■ 第2回全国育樹祭 昭和53年10月7日（土）



- 会場
仙北市
(旧田沢湖町：県民の森)
- 参加人数
4,484人

■ 第59回全国植樹祭 平成20年6月15日（日）



- 会場
北秋田市
(県立北欧の杜公園)
- 参加人数
11,471人

3. 第50回全国育樹祭の開催理念と基本コンセプト



秋田県の豊かな森林

世代を超えて受け継がれる秋田の森林を育む心

「国の宝は山なり。山の衰えは則ち国の衰えなり。」

江戸初期の秋田藩家老である渋江政光の遺訓

第50回全国育樹祭 3つの柱

多様な森づくりと
森林資源の循環利用



- 「伐って・使って・
植えて・育てる」という
森林資源の循環利用の促進

次代を担う
人材の確保と育成



- 次代を担う児童・生徒
等多様な県民運動の
一層の推進

技術の伝承と開発
と情報発信



- 伝統的木材加工技術
■ 新たな技術開発
■ 木材利用の発信

豊かな森を守り育てる ▶ 未来への継承

大会テーマ

「緑育てる小さな一歩 未来へつながる大きな希望」

継続して森を守り育てること
の大切さを普及啓発し、国民
の森林に対する愛情を培う

県土の保全や環境を守る意識の高揚
と美しい自然や歴史、文化、新鮮な
農林水産物などの魅力を全国に発信

「国の宝は山なり」古来より森林と人との結びつきが強く、その恩恵を享受してきた秋田県ならではの視点で、「いのちの森」を育ててきた歴史から学び、新たに創造し、豊かな未来への道筋を確認・共有する大会とします。

4. お手入れ行事

緑の少年団や高校生などの介添えにより、皇族殿下が天皇皇后両陛下のお手植え木に枝打ちなどのお手入れをされます。

- 会 場 県立北欧の杜公園（北秋田市）
- 参加者 約300人（特別招待者、県内林業関係団体、スタッフ等）
- 内 容 御製碑やパネルなどの御覧、枝打ち等のお手入れ、参加者による記念育樹等



第48回全国育樹祭（宮城県）

5. 式典行事

皇族殿下のおことば、緑化功労者等の表彰、緑の少年団活動の発表、メインテーマアトラクション、大会宣言などを行います。

- 会 場 ニプロハチ公ドーム（大館市）
- 参加者 約5,000人（県外・県内参加者、出演者、スタッフ等）
- 内 容 皇族殿下のおことば、緑化功労者等の表彰、緑の少年団活動の発表、大会宣言等



第48回全国育樹祭（宮城県）

6. 併催行事・記念行事

■ 育林交流集会

林業関係者はもとより、次世代を担う高校生や大学生、ボランティア団体など、森林・林業に関心を持つ人たちが参加し、森林・林業が直面する課題等をテーマに基調講演やパネルディスカッションなどを行います。

■ 全国緑の少年団活動発表大会

県内及び全国から選出された緑の少年団が一堂に集い、日頃の活動について発表を行います。また、団員同士の親交を深めるため、交流集会を行います。

■ 森林・林業・環境機械展示実演会

林業関係者はもとより、将来の森林づくりの担い手である高校生等や一般参加者などを対象として、全国の林業機械や環境機械メーカー等による最新機械の展示実演などを行います。

■ 懇談会（歓迎レセプション）

皇族殿下の御臨席を仰ぎ、大会関係者や緑化功労者等を招待して懇談会を開催します。

■ 国民参加の森林づくりシンポジウム（1年前プレイベント）

第50回全国育樹祭の1年前に記念行事として、森林づくり活動参加への動機付けとなる基調講演やパネルディスカッションなどを行います。

■ 秋田県緑の少年団活動発表大会

県内の緑の少年団が集い、日頃の活動について発表を行います。最優秀団体は翌年の全国大会へ出場します。



育林交流集会



全国緑の少年団活動発表大会



森林・林業・環境機械展示実演会